

令和7年度 鈴鹿市高齢者福祉計画策定委員会 議事概要

1 開催概要

- (1) 日時 令和7年7月3日(木)午後3時～3時45分
- (2) 場所 鈴鹿市役所 本館4階 405ミーティングルーム
- (3) 出席委員:10名
齊藤 晋治(委員長)、藤田 浩弥、林 竜一郎、寺田 隆、伊藤 健司、
伊藤 壽一、吉村 貴、中条 裕、菅谷 信之、岸 俊子
- (4) 事務局:10名
江藤 大輔(健康福祉部長)
小林 佐織(健康福祉部次長兼鈴鹿市社会福祉事務所長)
佐野 方彦(健康福祉部健康福祉政策課長)
前川 亘(健康福祉部長寿社会課長)
服部 さゆり(健康福祉部長寿社会課管理グループリーダー)
永田 健太郎(健康福祉部長寿社会課高齢者福祉グループリーダー)
田中 真紀子(健康福祉部長寿社会課地域包括ケアシステム推進室長)
川口 佳宏(健康福祉部長寿社会課地域包括ケアシステム推進室)
平野 映美(健康福祉部長寿社会課地域包括ケアシステム推進室)
相良 大輝(健康福祉部長寿社会課地域包括ケアシステム推進室)

2 会議の主な内容

- (1) 委員長の選任
・委員長:齊藤晋治氏
が選任され承認された。
- (2) 報告事項
第10次鈴鹿市高齢者福祉計画の令和6年度における取組進捗状況について
(資料1-1、資料1-2、資料1-3)
(事務局)
・計画の基本理念・目標を説明し、また各資料に沿って各種施策の取組進捗状況を報告した。

○鈴鹿いきいきボランティアについて

(委員)

- ・資料1-3の取組No.36に令和6年度の鈴鹿いきいきボランティアの登録人数が183人と記載があるが、これは目標を達成したということでしょうか。
また、ボランティア受入施設数は71施設ととらえていいのか。
私はボランティア活動をしており、令和7年度にボランティア受入している施設数が78である。どのタイミングでこちらに反映されているのか、疑問になった。

登録者数は183人のようだが、実際に活動されているのは3割であり、これに対し、昨年はどうの対応をしたか。

(事務局)

・しばらく活動がない方については、委託先の鈴鹿市社会福祉協議会から電話等で活動を促す連絡をしていると伺っている。

(委員)

・私は実際に活動をしているが、ボランティア活動がしたくて登録されているのに、なぜ活動しないのか、疑問に思った。

(事務局)

・高齢者がボランティアとして登録しているため、中には体力的に無理になってきたので、活動を控えたいと連絡がある方もいる。

(委員)

・実際の活動実績については、上半期や下半期で整理されているのだと思うが、登録人数だけ報告しても全く意味がないのではないか。

(事務局)

・2月末頃に鈴鹿市社会福祉協議会から活動実績の報告をいただき、その中で、実績の数は把握している。

(委員)

・私もボランティア登録をしていたが、訳があり休会届を出した。

しかし、ボランティア会議の会長から何度も電話が来て、休会の理由も伝えたが、ボランティア会議から、手紙がいまだに来る。ということは、休会届を出しても社協はチェックをしてくれていないのか、あるいはそれが受け入れられていないのではないか。

ボランティアの登録人数が多い方が、数としていいのかもしれないが、実際の活動者数をもう少しはっきりさせた方が良いのではないかと思う。

(委員)

・活動されている方が、全体の3割ということの方が問題に思う。せっかくやる気があって登録してくれたのに、何かの不都合で活動されていなかったとしたら、残念なことである。

(事務局)

・その部分は、鈴鹿市社会福祉協議会に確認をさせていただきたいと思う。

(委員)

・是非お願いしたい。

○実施状況調査シート(資料1-3)の記入内容について

(委員)

・主な取組状況の一覧を見ると、実績値は書かれているが、目標達成をするために、関連部門とどのようなやりとりをして、どのような取り組みをしたのかを我々は知りたいので、その内容を入れて欲しい。

この内容では、適正な評価が難しいと思うので、次回から、実績については必ず具体的な取組や活動内容も含めて記入いただくよう統一してほしい。

それによって、継続するにしても、来期取り組む内容が変わってくると思う

ので、お願いしたい。

(事務局)

・いただいた意見を反映していきたいと思う。

○ふれあいいきいきサロンについて

(委員)

・資料 1-2、活動指標5番について、令和6年度の目標値が 150 か所で、実績値は 171 か所ということで、令和8年度の目標値を達成している。

また、補助金の関係で要綱を改正し、サロンの参加人数を5人から 10 人に変更したり、趣味活動は対象外とする等、条件を変えていると伺っている。先の話ではあるが、令和8年度に向けてどのような目標値の修正をしていくかお伺いしたい。

(事務局)

・ふれあいいきいきサロンの数についてはこれまでの流れと現状を照らし合わせて目標値の設定を検討したいと思っている。

(委員)

・では、目標は達成しているが、目標値の設定はそのままということか。

(事務局)

・ふれあいいきいきサロンの数については、このまま右肩上がりが増えるか、今後を見据えながら、現状値も踏まえて、目標設定をしたい。

(委員)

・高齢者の数も増えてきているし、逆にここまで増えたということであれば、もう少し延長線上で、各年度の目標値を上げた方が良いと思う。

補助金あつての話なので、その部分もよく検討しながらしていただく必要があると思う。

(事務局)

・貴重な御意見として承り、反映していきたいと思う。

(委員長)

・サロンが 171 か所ということについて、鈴鹿市は地域性が分かれているような所があるかと思うが、地域によるサロンの分布図のようなものが分かったら、単純に数が達成しているのか、ブロックそれぞれに使えるところがある等、把握ができると思った。

地域によって偏りもあると思うので、エリア圏域での調査や分析などをすると理解が進むかと思うし、利用できるサービスがあることによって、住み慣れた地域で生活が続けられるということにつながると思う。

○認知症サポーター養成講座について

(委員)

・認知症サポーター養成講座の開催回数が増えている。

こどもに知ってもらうことは非常に大事なことだと思うが、小学4年生で受け

て、中学2年生になった時にも、もう一度受けるということか。

(事務局)

- ・中学校2年生は、学校の職場体験の時期でもあり、中学生向けの内容で養成講座を行う。

(委員)

- ・その場合、小学4年生で受けた子が中学2年生でも受けると、人数はダブルカウントになるのではないか。実施毎に人数を加算していくと、延べ人数でどんどん増えていくことになる。

(委員)

- ・認知症サポーター養成講座は、何回受けてもいいと思う。また、年々グレードアップしている。私達は、サロンで毎年しているし、もちろん小学校でもしてもらっている。人数が上がっていくと、大いにすべきだと思っている。

(委員)

- ・何をもって、この人数の統計をしていくのか。何回も受けることはよいことだが、延べ人数をカウントすると、どんどん人数が増えていく。

(委員長)

- ・おそらく、令和10年度から急激に増えると思われる。

(事務局)

- ・次回の計画策定の際には、活動指標の設定の見直しも検討したい。

(委員長)

- ・ただ、小さい頃から、認知症の理解を広げておくということは、市民全体の認知症理解につながり、非常に重要な取り組みではないかと思う。

(委員)

- ・家の中でおじいちゃんおばあちゃんがちょっと変な行動をしていたらそれで気づくというのは、いいことだと思う。認知症の人は、自分の自覚がなく、周りが気づくので。

(委員長)

- ・本日の意見を踏まえて事務局は第10次計画の取り組み推進に向けて引き続きよろしくお願いします。

閉会